2025年版　関西医科大学香里病院　外科系診療科

診療科	疾患名・手術名	疾患・治療法の特徴	手術方法　治療	手術・治療の特徴	麻酔方法	入院期間 (標準的な入院)	備考
外科 ■大腸癌や胃癌の 腹腔鏡手術 化学療法　胆のう炎 虫垂炎　イレウス 緩和手術	鼠径ヘルニア	脱出が大きくなると歩行等のADLに支障をきたす リハビリなどに支障が出る 嵌頓し整復できない場合は緊急手術が必要になる	腹腔鏡下ヘルニア修復術	腹腔鏡手術は再発率が低く、対側のヘルニアも観察可能 痛みが少なく整容性に優れている 再発手術にも対応可能	全身麻酔	術前日入院	入院期間の相談は可能
	腹壁瘢痕ヘルニア	脱出が大きくなると歩行等のADLに支障をきたす リハビリなどに支障が出る 嵌頓し整復できない場合は緊急手術が必要	腹腔鏡下ヘルニア修復術	術後の痛みが少なく整容性に優れている 再発手術にも対応可能	全身麻酔	術前日入院 5泊6日	入院期間の相談は可能
	直腸脱	脱出が大きくなると歩行等のADLに支障をきたす 腹痛や肛門痛の症状が出る 下着が汚れる	腹腔鏡下直腸固定術	術後の痛みが少なく整容性に優れている	全身麻酔	術前日入院 6泊7日	入院期間の相談は可能
	内痔核	日常生活に支障をきたす 痛みや不快感を伴う 座薬などの一時的な治療では再発率が高い	ジオン注	痛みが少ない治療 合併症が少ない	局所麻酔	術当日入院 1泊2日	入院期間の相談は可能
	皮下埋め込みポート	在宅患者や緩和期の患者の点滴ルート確保	皮下埋め込みポート挿入術	感染や閉塞を伴わなければ年単位で使用可能 末梢血管が潰れた患者でも可能、入浴なども可能	局所麻酔	当日入院施行 1泊2日	ポート使用に関する指導も可能 入院期間の相談は可能
乳腺外科 ■乳癌治療 化学療法	乳癌アブレーション治療	1.5cm未満の乳癌を切らずにラジオ波で焼灼する治療	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	1.5cm未満の大きさの乳癌に針を刺してラジオ波で焼灼	全身麻酔	前日入院　約1週間	2025年4月から 当院でも施行可能となりました
	乳癌術後乳房再建	乳癌術後に乳房の膨らみを再建する治療	インプラント挿入 広背筋皮弁による乳房再建	乳房切除術後にインプラント または広背筋皮弁を用いて乳房を再建	全身麻酔	前日入院　約2週間	乳房再建は形成外科医が行います
	乳房微細石灰化の生検	マンモグラフィーで精査を要する石灰化像の生検	ステレオガイド下マンモトーム生検 (画像ガイド下吸引術)	マンモグラフィーのガイド下に 5mm程度の切開創で針生検を施行	局所麻酔	日帰り	事前診察・予約が必要な検査です
	乳房腫瘤の生検	コア針生検などで精査困難な腫瘤を エコーガイド下にさらに太い針で施行する生検	エコーガイド下マンモトーム生検 (画像ガイド下吸引術)	エコーガイド下に5mm程度の切開創で針生検を施行			
	腋窩リンパ節腫大の生検	リンパ節腫大の原因精査のための生検	コア針生検	リンパ節が表層にあり、周囲に血管がなければ、 エコーガイド下に針生検が可能	局所麻酔	日帰り	
			摘出生検	腫大リンパ節が深部にあり、 周囲の血管の状態によっては、摘出生検となる	局所麻酔	日帰り	
				部位や大きさにより全身麻酔が必要な場合もある	全身麻酔	前日入院　3～4日	
整形外科 ■骨折や外傷治療 骨粗鬆症 リュウマチなど	外反母趾	足部を支持する軟部組織の弛緩などが原因	Mann法による第一中足骨骨切り術	変形の程度と疼痛などの 愁訴の程度は一致しないことがある	全身麻酔	術後4週間の ギプス固定	松葉杖歩行が可能なら 術後2週間程度で退院可能
		保存治療では軽快せず、 矯正を行う場合は手術的介入が必要	矯正が困難な場合はAkin法による 基節骨骨切り術を併施	愁訴に乏しい症例については手術的介入は行いません	腰椎麻酔		設置したインプラントの抜去手術は 術後1年で日帰り手術可能
	強剛母趾	母趾の付け根の関節に生ずる関節症が原因の疾患	インプラントによる人工関節置換	速やかに除痛され、背屈可動域制限も解消する	全身麻酔	術後2週間から 歩行訓練開始	
		関節の可動域障害による歩行障害の原因となる			腰椎麻酔		
腎泌尿器外科 ■泌尿器系腫瘍 化学療法	尿管結石	尿管結石砕石により疼痛の軽減	経尿道的尿管結石砕石術(TUL)	体外衝撃波等より確実性が高い、 軟性内視鏡にレーザーを組み合わせた治療	全身麻酔	前日入院 4泊5日	入院期間の相談は可能
		結石嵌頓による腎萎縮や機能低下の防止		大きな結石に対しては、特に効果が高い	腰椎麻酔		
	前立腺肥大症	排尿困難や尿閉などの症状	経尿道的前立腺核出術(TUEB/HoLEP)	従来の内視鏡による手術方法(TUP-P)より 安全で再発がほとんど無い	全身麻酔	前日入院 3泊4日	入院期間の相談は可能
		尿道カテーテルの留置が必要になる場合がある	経尿道的前立腺吊り上げ術(URO LIFT)	インプラントによる尿道拡張術 安全で低侵襲、施術時間は15分程度	腰椎麻酔		
	排尿ケア	排尿自立支援 尿道カテーテルの留置が必要になる場合がある	排尿ケアチームによる包括的な治療やケア 尿道カテーテル留置や 抜去後の失禁や尿閉のケア	多職種(医師 WOC看護師 作業療法士など)の チームによるケア 尿道カテーテルフリーを目指す		数日から 数週間	入院期間の相談は可能
	膀胱瘤(膀胱脱手術)	女性の骨盤的筋群脆弱化による 膀胱の脱出に有効な手術(TVM手術) 違和感の軽減　排尿障害の改善	メッシュによる吊り上げ手術	近隣では施行できる施設が限られる	全身麻酔	4泊5日～6泊7日 入院	入院期間の相談は可能
耳鼻咽喉科	好酸球性副鼻腔炎	指定難病であり診断確定が必要 後治療(抗体療法)における経済的メリットが大きい	鼻内内視鏡手術	最新のナビゲーション装置を使用し安全で確実な手術が可能	全身麻酔	前日入院 4泊5日	
	アレルギー性鼻炎	鼻閉やくしゃみ、鼻汁、頭痛、倦怠感などの症状があり、 仕事や学習効率の低下 ガイドラインでも重症以上の 保存療法抵抗性患者に対しては手術を推奨	鼻内内視鏡手術	内視鏡下に微細な手術を行う	全身麻酔	前日入院 4泊5日	
	慢性中耳炎	耳漏や難聴などの中耳炎後の症状	鼓膜再生療法	経外耳道的内視鏡下耳科手術が1時間程度の日帰り手術であり、 皮膚切開や入院、全身麻酔が不要		日帰り手術	
	嚥下機能障害	高齢化社会における重要な疾患 誤嚥性肺炎のリスクの低減	耳鼻咽喉科医師による嚥下機能評価	多職種チームによる嚥下指導 (医師 摂食嚥下看護師 言語聴覚士 栄養士など) 管理栄養士による食事指導		3泊4日から	入院期間の相談は可能

2025年版　関西医科大学香里病院　外科系診療科

診療科	疾患名・手術名	疾患・治療法の特徴	手術方法　治療	手術・治療の特徴	麻酔方法	入院期間 (標準的な入院)	備考
眼科	眼内レンズ亜脱臼・脱臼	近年増加傾向にある 脱臼の程度や脱臼IOLの種類によって 様々なバリエーションがある	福岡式眼内レンズ摘出術 および山根式強膜内固定術	当科では極小切開・完全無縫合による低侵襲手術が可能	局所麻酔	日帰りから 入院まで要相談	
	緑内障	60歳以上では1割程度の患者が存在する高齢者疾患 視野狭窄や視野欠損、急激な視力低下などの症状	MIGS（低侵襲緑内障手術）、 プリザーフロマイクロシャント挿入術	手術経験と熟練した技術を要する 白内障手術との同時手術も可能で、短時間で行える	局所麻酔	日帰りから 入院まで要相談	
皮膚科	アトピー性皮膚炎	掻痒感が強くQOL低下を招く 症状の増悪軽快を繰り返す	内服・外用・紫外線療法 生物学的製剤	外用や内服治療を行い、改善に乏しい場合に紫外線治療を行う 紫外線治療は、少なくとも週1回の照射が必要		外来治療	
	円形脱毛症	頭部に円形や楕円形の脱毛斑が出現 まれに頭部全体に脱毛をきたすことがある	エキシマライト(VTRAC®) エキシマレーザー(XTRAC®) JAK阻害薬	内服・外用にて発毛に乏しい場合は、紫外線治療を行う 少なくとも週1回の照射が必要		外来治療	
	尋常性白斑	皮膚のメラノサイトが減少する 皮膚の色が白く抜けて、大小さまざまな白い斑を形成	エキシマライト(VTRAC®) エキシマレーザー(XTRAC®)	外用にて色素再生に乏しい場合、紫外線治療 少なくとも週1回の照射が必要		外来治療	
	脂漏性角化症	紫外線や皮膚の老化によって発症	液体窒素による冷凍凝固治療	液体窒素で冷凍凝固して脱落　複数回治療が必要		外来治療	
		少し盛り上がった茶色～黒色の腫瘤	＊炭酸ガスレーザー治療	局所麻酔いレーザーで蒸散して取り除く	局所麻酔	外来治療	*自費診療　大きさにより料金が変化
	老人性色素斑 （日光黒子）	一般的にシミとよばれる皮膚変化	＊QスイッチNd:YAGレーザー	1回の照射で消失することが多い		外来治療	*自費診療　大きさにより料金が変化
		境界明瞭な円形から楕円形の褐色斑		治療後に治療部位を保護するテープを貼る必要あり			
	肝斑	両類の左右対称の褐色斑	＊レーザートーニング	紫外線対策やハイドロキノンの外用や内服、生活指導も行う		外来治療	*自費診療　大きさにより料金が変化
		紫外線や皮膚の刺激で悪化	(QスイッチNd:YAGレーザー)	2～4週に1度の頻度で計5-10回照射			
婦人科	子宮内膜ポリープ	代表的な子宮内腔の隆起性腫瘤で無症状のこともあるが、 微小な悪性病変が潜在することがあるため、 積極的に子宮鏡下ポリープ切除術を取り入れている	子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術(軟性鏡)	低侵襲手術 合併症が極めて少ない 手術時間は10-15分程度 合併症がきわめて少ない	静脈麻酔＋局所麻酔	1泊2日	
	子宮内膜ポリープ	いずれも子宮内腔の隆起性腫瘤	レゼクトスコープ（軟性鏡）	低侵襲手術	全身麻酔	2泊3日	
	子宮粘膜下筋腫	接地面積が広い子宮内膜ポリープは本術式の適応		多くの医療機関で行われている 術前の頸管拡張処置は必要としない			
	子宮筋腫	子宮平滑筋細胞に由来する良性腫瘍 (30歳以上の女性の約30%にみられる) 筋腫の部位により、過多月経、 月経困難症、不正出血、下腹部腫瘤感	子宮動脈塞栓術	画像検査で良性の可能性がきわめて高く、 子宮全摘術を希望しない場合が適応	局所麻酔	3泊4日	